

松沢地区 意見交換概要

日時 令和4年5月 26 日(木) 19:30～20:38

場所 松沢公民館

出席 52 名

No.	発言要旨	市長回答要旨
1	Uターンし、メルヘンガイドをしている。大河ドラマの影響でバスの観光が増えており、ガイド5、6人で遣り繰りしているが、平均年齢が70歳代であり、後継者がいない。大河ドラマで義仲が主人公となる頃には、私たちはいないと思う。このままでは絶えてしまうので、養成していただきたい。誰でもいいというものではない。市長の鶴の一声で、商工観光課員、道の駅・クロスランドおやべ職員、学校の先生、市内の企業辺りに推薦依頼すれば、増えるのではないか。観光ガイド養成の体制づくりをしていただきたい。	ガイドの高齢化が進んでいることが分かった。「鎌倉殿の13人」で、義仲と巴が大変いい形で描かれた。4月に開催したプレミアムトークショーも大変多くの方に来ていただき、ありがたいと思っている。これを大きなステップとして、大河ドラマの実現に向け、引き続き取り組んでいきたい。そのためにも、ガイドを養成していかなければならない。
2	「わらび学園」で「きずな」レベルの親子に対する療育指導を行うように働きかけてほしい。また、医療的ケア児の受け入れができるように、看護師確保の手立てを考えていただきたい。	呉西6市でいろいろな課題について話を進めている中で、協議をしている。やはり、政治は弱者に手を差し伸べることが政治の原点であるので、そのことを念頭に置き、要望していきたいと思う。
3	地域コミュニティの運営では、非常に若手の力が少なくなり、苦勞している。青年団は40代、営農も70代、この状態では若い人たちが地域コミュニティに入ってきてくれないと感じている。いろいろな意見があると思うが、市からの支援が必要だと思っている。それが、小矢部に住みたいと思う人が増えることに繋がっていくのではと思う。少しでも、小矢部の魅力を高める施策が必要かと思う。	インセンティブを設けて参加を促すやり方もあるし、意識改革をしていただき、みんなで地域を守っていこうという意識を持っていただくという思いもある。どちらが良いとは言えないが、小規模多機能で自治を運営していく手法はあると思うので、御指摘を十分に踏まえて、施策を進めていきたい。市職員には、なるべく伝統文化、地域の公民館活動、町内活動に出るよう、そして、各企業にもいろいろな機会を通じてお願いしているところである。
4	都会の人は、田舎は下水が整備されていないのではないかと思う人がいるかもしれないが、小矢部市は幹線については整備されているとアピールし、定住促進につなげてはどうか。	市のいろいろな優位性を訴えていきたいと思う。上下水道については、小矢部市は散居村なので、整備するには多額の費用がかかるが、国や県などの助成制度、公金を活用し、しっかりと取り組んでいる。これからもしっかりと整備を進めていきたい。
5	大谷こども園の子供たちと地域との交流について要望する。残念ながら、完成した途端、コロナで見学会が中止になり、完成式もできない状況だったが、少し落ち着いてきたので、子供たちと地域との交流を図っていきたい。	要望として受け止める。 (令和5年度は、園内行事の課題を整理し、公民館長等の御意見を参考に交流を進めていきたい。)

No.	発言要旨	市長回答要旨
6	<p>最近、健康ブームでランニングやウォーキングをする方が多い。雨も多く冬は雪が降り、1年続けて走ったり歩いたりできる場所がない。年間を通じて、子供やお年寄りなど誰もが歩いたり走ったりできる場所があればよいと思う。</p>	<p>これだけ健康ブーム、健康寿命の延伸が叫ばれているので、各地区にスポーツ、生涯スポーツをお願いしているところである。ちょっと遠いかもしれないが、市民体育館、埴生の文化スポーツセンターでいろいろな教室が開催されている。クロスランドでは、多くの方がウォーキング、ジョギングをされている。アリーナのような大きな施設をつくることは、今の体力では厳しいので、違う形で健康増進を模索していきたい。</p>